



ギリシャ神話への旅

作家・ドイツ在住 川口マーン恵美

知っているようで何も知らない国

20年ぐらい前、ギリシャ神話にハマったことがあり、ぜひ行きたいと思っていたが、ようやく念願がかなって、4月末、初めてギリシャはクレタ島の地を踏んだ。エーゲ海に浮かぶこの島は、3千にも及ぶギリシャの島々の中では最大で、広島県ほどの広さに63万人が住む。たった8日間、しかも限られた地域しか見ていないから、私の視野に入ったことのみについての感想だが、結論から言うと、自然の美しさや食べ物のおいしさもさることながら、私はギリシャ人が大好きになってしまった。ある国の人々に対して、これほどポジティブな感情を抱いた旅というのは初めてかもしれない。

ギリシャについては、たいいていの人は知っているようでほとんど何も知らない。私も同様に、アテナイ(アテネ)やスパルタは大昔の話だし、ソクラテスやアルキメデスも名前だけという程度。そういえば2009年、ユーロ危機が勃発した際は、ギリシャはその張本人としてつるし上げられ、以後2年ほど、それぞれ毎晩ニュースに登場していた。怠け者の国民で、その尻拭いをドイツがしなければならないという非難めいたトーンが主だったのを覚えている。しかし、ユーロ危機が収まると、ギリシャはあっという間にニュースから消え、オリンピックの聖火の

出発以外では見かけない状態に戻った。今では首相の名前さえ誰も知らない。

4千年前からの町

クレタ島の文明は、ヨーロッパ最古のものの一つだ。都市国家アテナイが最盛期を迎えたのは紀元前500年頃で、クレタ島のミノア文明が栄えたのは紀元前2000年。桁が違う。それもあり、神話と古代史がごっちゃになってしまっている。ちなみに、神々の王ゼウスは、クレタ島のディクテオン洞窟で生まれたとされ、クレタ島はギリシャ神話の中でも重要な位置を占める。クレタ島が浮かぶエーゲ海は、青い海と白い海岸が美しい。島の首府で最大都市のイラクリオン市の空港には、ヨーロッパ各地からの国際チャーター便が続々と着く。

1900年、そのイラクリオンの近郊で、ミノア文明のクノッソス遺跡が発掘された。部屋数が1200以上もある巨大な王宮跡で、高度な工芸品、文字まで見つかった。近隣と交易が行われており、それで得た富により、本土のギリシャ文明よりも前に高い文明が築かれたと思われる。

ただ、私が滞在したのは、イラクリオンからレンタカーで西に2時間、クレタ島で2番目に大きいハニア市。ハニアは古代から同じ場所にあるため、地面を掘るとしよっちゅう遺跡に突き当たるらしい。4千年間、場所の変わっていない町というのは、世界でそう幾つもない。ハニアの港はオールド・ベネツィアン・ハーバーと呼ばれる。15世紀の半ば、ギリシャが属して

